

学校評価報告書

1. 評価の概要

(1) 回答数

種別	総数	備考
学校自己評価	175	小 35、中 35、高 67、訪 4、サポート（事務も）20、無記入 14
保護者アンケート	291	小 81、中 78、高 130、訪問 2
地域アンケート	17	

(2) 評価の方法

- ・A: できた (4)、B: だいたいできた (3)、C: あまりできなかった (2)、D: できなかった (1)、E: わからない (0)、無記入 (0) として計算。
- ・各項目について、E: わからないおよび無記入を無効として除外し、A~D の値の平均値を計算。
- ・各項目の平均値を A (~3.2)、B (3.2~2.8)、C (2.8~2.4)、D (2.4~) として表記。

2. 学校自己評価の分析結果

(1) 評価全体に関する考察

- ・回答数、小学部 35 名 (46 名中)・中学部 35 名 (43 名中)・高等部 67 名 (67 名中)
- ・回答の平均値 全体 (3.05)
小学部 (3.14)、中学部 (2.92)、高等部 (3.04)、サポートチーム (3.15)、無記入 (3.18)
- ・全体として Q2「各学部の情報を共有しお互いに協力・連携ができているか」という項目で、低い値がでている。学部による様々な違いがあるものの、指導の一貫性や継続性について、現在の学校は課題を抱えているということを全学部の職員の多くが感じていると考えられる。
- ・Q26~Q28 (地域とのつながり、交流等) については、関係する職員以外はわかりにくく、評価しづらいのでこの結果になっていると推察される。

(2) 各項目に関する考察

- ・Q2→学部間の情報共有や協力連携について学校全体で C 評価であり、全学部でも同様の C 評価で低い値を示している。
コロナ禍のもと、学部でも全体での活動を避け、クラス単位など細分化していることもあり、学部間だけでなく学年や、ともすると隣の学級でも何をしているかわからない面もある。また同じ学部でも、校舎がプレハブなどで離れており、学習活動や生徒情報の共有が難しい。
- ・Q5→避難訓練等に関して中学部、訪問学級が低い評価になっている。医ケアや肢体不自由の生徒の在籍する学部等で安全な避難ができるか、危惧を感じている人の割合が多いのではないかと。ただ小学部は比較的高い評価となっているが、教室がほぼ 1 階

にあり、スムーズに行えているからか。

- ・Q8→研究、研修に関して、中学部での評価が低い。1年間の取り組みが満足に行えず、十分な成果を得られなかったからか。
- ・Q22→進路の情報提供について中学部でC評価となっている。高等部～卒業後のことが気になるものの、大多数が本校高等部に進学する見込みの中で、生徒や教員が高等部での学校生活をうまくイメージできなかったことによるか。
- ・Q23→卒業後を見据えたキャリア教育について、訪問教育の観点から児童生徒の卒業後の選択肢が少なく、卒後の姿が想像しにくい部分があるのか。
- ・Q26→地域での理解が進んでいるかについて、高等部では職業の授業でセブンイレブンの協力を得て学習しており、地域の人と実際に関わる機会があるので比較的良い評価になっているか。
- ・Q28→居住地校交流について、小学部は何度かは実施しており、B評価につながっているのか。高等部は県西との交流を昨年度とは違う形で（オンライン交流に加えて）実際に搬入展示を相手校の生徒と行ったのでBとなったか。
- ・Q30→新設校に対して、中学部でC評価となっている。親の不安や要望が様々ある中、応えられないことなどもあったためかと考える。

(3) コメントに対する考察

- ・相手を大切にする連携や一体感を求めるコメントが多かった逆に、相手のことをあまり考えずに半ば無責任に振舞うことで、多くの迷惑な事態が生じていることを訴える声もあり、この体質を検討すべきである。

3. 保護者アンケートの分析結果

(1) 評価全体に関する考察

- ・Q12については全体としてわからないというのが保護者の思いではないか。

(2) 各項目に関する考察

- ・各項目について、
- ・Q4→進路指導に関連して、中学部3年において、C評価である。進路説明会が中止になったことなどが要因ではないか。高等部では、学年が上がっていくとともに保護者の評価も上がっている。
- ・Q5→医療や福祉との連携について、B評価が多かった。コロナ渦で支援会議などができなかったこともあるのではないかと。
- ・Q12→小中高の一貫した指導について、実態がわからないというのが実情であると考え。小低に関してはA評価であり、将来への期待が入った評価であると推測される。小高に関しては、中学部へ進級する不安からかC評価となっている。

(3) コメントに対する考察

- ・多様な声が寄せられており、関係部署で評価いただいた。

4. 地域アンケートの分析結果

(1) 評価全体に関する考察

- ・地域で関係する自治会や事業所等に加え、生徒の利用する交通機関等も加え、17 のアンケートをいただいた。
- ・本校が小1から高3まで通う知的障害の学校であることは割と周知されているが、学校から発している情報はあまりなじみが無く、地域での交流や教育活動を行っていることはわからないとしている。
- ・アンケートの依頼先は、教育活動でそれぞれ本校と関わりのあるところなので、関係する設問のポイントは高いが、全般的に広く知られているわけではないと言える。
- ・地域の教育相談等、センター的機能を有することは、このアンケートの回答者には認知されていなかった。
- ・本校が災害時の避難場所に指定されていることもあまり知られておらず、地域防災の課題の一つと言える。

(2) コメントに関する考察

- ・概ね、生徒や学校の取り組みを評価するコメントで、コロナ収束後の交流への期待など述べられていた。
- ・一部、通勤する車に対して、学校関係者として意識して運転してほしい、とのコメントもあった。